

## 教育課程論（1月25日）講義メモ

1 後期のリアクションを返却します。評価もコメントもなしで、申し訳ありません。コメントを書こうと思ったのですが、自分の字が下手で、皆さんに下手な字をお見せするのが忍びなく、あきらめました。一応評価はしましたので、成績には反映します。特に優れたものにはAないし、A'を付けていますが、それ以外の人もよく書かれています。自分のリアクションをざーと見た感想も今日のリアクションの2に書いてください。

2 出席はリアクションからチェックしていますが、間違いがあれば、後で直してください。

3 前回、前々回のリアクションの感想を1に書いてください。

4 今日は、まとめということで、この後期の授業のテーマと主な内容を半ページにまとめました。これと、皆さん自身のリアクションを見ながら、この半年をふりかえってください。

5 「教育課程論」という授業でしたが、最初の方に、その中核部分をやって、その後はその周辺、教育課程を規定するもの、関係するものを見ていきました。また、後半は、講師や4年生を招いての授業になりました。講師としては、東京書籍の人に電子黒板、道徳教育、教育思想（佐藤先生）、4年生に、お願いしました。とてもいい話で、いろいろ学んでいただいたと思います。

まとめを使って、少し説明します。

6 この内容は、私のブログの方にも書きましたので、その一部を抜粋しました。そちらも見てください。

ブログの方は、最近あまり書いていないのですが、少し見たテレビのことなどを書きましたので、ご覧ください。村上春樹原作のバーニングという韓国映画のことや、若者討論番組のこと、安室奈美恵のことなどを掲載しています。

7 まとめの補足として、図や絵のものがわかりやすいと思いましたが、いくつか断片的ですが、掲載します。少し説明します。

8 皆さんは、図や絵を描くのが得意かもしれないと思いましたが、なにか、授業のまとめを図や絵にしていただければと思いましたが（全体的なことでも、一部でも）

9 試験は、来週の金曜日に持ち込み可で、4時40分より50分間で行いたいと思います（プリントノート、リアクション、本などお持ちください）。

## 教育課程論リアクション（1月25日） まとめ

番号 氏名

- 1 リアクションを読んでの感想（教育思想 4年生の話）
  
- 2 自分の後期のリアクションの感想
  
- 3 「教育課程論」のまとめ & 武内ブログの感想、
  
- 4 教育に関する図表へのコメント
  
- 5 「教育課程を規定するもの」or「教育に関して大切なこと」or『今求められる教育』など、教育に関することを 図や絵で 示しなさい。

### 教育の目標、教育の目的について (2018年10月7日)

担当している敬愛の授業で学生に、後期の最初なので、教育における目標や目的について、考えてもらった。具体的に、どのような人間になることを目的や目標にするのがいいかと聞いた。1 自分にとって成長の目的(目標)は何か。どのような人間になりたいか。

2 どのようなことを教育の目的(目標)にするか。つまり、教師になったら、どのような子どもに育てたいのか。

学生の回答を、1を④つに、2を③つに分けたが、基本的には2つで、一つは「自分自身に関わること」、もう一つは「身近な他者とのかかわりに関すること」である。それを、道徳教育の内容項目と対比してみた。道徳教育の内容項目は、「自分に関すること」、「他人とのかかわりに関すること」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわりに関すること」の4つである。学生の回答をみると、最初の2つがほとんどで、後の2つはほとんど出てこない。教育者になろうとするものは、最初の2つも大事だが、さらに広い視野をもち、後の2つに関しても、普通の人以上に敏感になる必要があると、説明した。

### 教育課程論(第3回)の記録(2018年10月17日)

昨年の授業内容とあまり変わらないが、少しは資料を追加し、新たな問も出している。先週(10月12日)の敬愛大学での授業(教育課程論)の記録を残しておきたい。

授業のテーマは、(新)学習指導要領の趣旨、キーコンセプトについて。配布資料は①前回のリアクションのコピー、②文部科学省「生きる力」、③松尾知明「教育課程論・方法論」第1章、④松尾知明『21世紀型スキルとは何か』、⑤武内清・教育社会学研究室ブログである。(添付参照)

前回の授業で、学習指導要領の変遷と2017年3月告示の新学習指導要領の総則部分はプリントして説明したので、そのリアクションを使い復習をした後、上記の資料を配布して、下記のリアクションの問いに答えてもらった。(実際のリアクションも一部添付する)

教育課程論(第3回)リアクション 1 武内ブログへのコメント2 「生きる力」とは(「これからの時代に求められる力とは」(文部科学省)参照)3 「確かな学力」とは(同上)4 2017年(新)学習指導要領改訂の趣旨は何か。無藤隆『学習指導要領改訂のキーワード』参照。5 アクティブ・ラーニングとは何か(同上)6 コンピテンシーとは何か(松尾「教育課程・方法論」第1章参照)7 21世紀型能力とは何か(松尾「21世紀型スキルとは何か」参照)8 これからの社会で、どのような能力が必要とされていると思うか。(自分の考え)

### 学生の考えるこれからの社会に必要な能力(2018年10月26日)

敬愛大学の「教育課程論」では、新学習指導要領の内容、特に「生きる力」や「アクティブ・ラーニング」や「コンピテンシー」「21世紀型能力」に関して説明した。最後に、「これからの社会で、どのような能力が必要とされていると思うか(自分の考え)」を書いてもらった。学生のリアクションを読むと学生達はこれからの社会へ必要とされる能力に関して理解し、自分言葉で語っていると思った。(一部抜粋)

ピンチの時こそチャンスに変える能力 自分の考えを持ち、その考えを多くの人と共有/知識を現場に適応し有効に活用していく為の能力/自分で考え、それを言葉にしたり、文にしたりする。生きる力 確かな学力/変化の激しい社会に対応していく適応力 パソコン技



術/自ら学び、主体的に判断し、行動し、問題を解決する能力/能動的に生きていく 知識を応用して実践する力/各自がどうすべきかを考えて行動できる力/変化に対応できる柔軟な力 基礎的な知識を持ち自分から行動できる力/幅広い学力 未来を切り拓いていく能力 / 自分で考え行動する/基礎力 コミュニケーション能力 対応力 / 他者との協同,洞察力 周りを見て行動する力 / 知識の習得とその活用パソコンスキル,学力、健康、体力、豊かな人間性 / 生きる力のような要素が必要

### アクティブ・ラーニング (主体的・対話的で深い学び) をどう教えるか (10月27日)

敬愛大学の「教育課程論」の授業で、新学習指導要領で提起されている「生きる力」や「主体的、対話的、深い学び」の一般的な内容を学生に説明し、学生もそれを概念的には理解してくれたことはわかるが (前掲ブログ参照)、次にそれを具体的な例で説明し、学生にわからせるというのはとても難しい。

どのような例で説明すれば、学生がそれを認知するだけでなく主体的に考え、自分の言葉で人に説明し、行動 (実践) にまでもっていけるようになるのかわからない。

一般論を理解してもらい、個別の例や実践は各自で考えてもらえばいいというのが、私のこれまでの考えだが、今回だけは、何か具体的な例はないものかと思案した。

そこで、まず、アクティブ・ラーニング (主体的・対話的で深い学び) に関しての第1人者である溝上慎一氏の文章から学び、学生にそれを理解してもらい、そのエッセンスの具体例を考えた。溝上氏の「深い学び」のエッセンスの一つは「関連づけ」ということである。外から教えられる知識や技術を被教育者 (学習者) が、自分の持っている興味関心や認知と関連づけて受け取り (アウトサイド・イン)、自分の言葉で他者に伝え、行動に移していく (インサイド・アウト) というものである。その説明の文章を抜粋して配り読んでもらい、要点を説明し、学生の理解を促した。(以下略)

### 4年生の話聞く (2019年1月14日)

敬愛の教育子ども学科の1年生の受講している私の授業 (「教育課程論」1月11日) で、国際学科で教職を取っている4年生6人に、大学生生活や教育実習や教員採用試験の話をしてもらった。

一人15分程度であるが、それぞれの体験に基づいたいい話をしてくれた。1年生が先輩の話に熱心に耳を傾けた。4年生ともなると、それぞれ思慮深く、頼もしい青年に育っていることを感じた。黒板の前に立ち話す態度は皆堂々としていて、ユーモアもまじえて、話し方も上手で、感心した。今の若者の話上手ということであるが、教育実習から学んだこ

ともあるのであろう。これは本人たちの努力の賜物だが、大学教育の成果でもあるのだらう。

教員採用試験に合格した苦労話 (野球部の部長ながら中高の英語に合格した者がいる) は、教職を目指す1年生にとって参考になったと思うが、それ以上に、教職を目指したが、様々な理由で途中進路変更した学生の体験談 ((一般企業への就職が多い) にも、心打たれるものがあった。大怪我をして長期に入院し目指した教職の単位が取れなかった学生、教育実習に行き教師の多忙さと超真面目さに直面し自分には合わないと思進路変更をした学生など、いろいろな「挫折」を味わっている。一般企業に就職することになったが、教職の勉強や実習は企業への就職にも役立っているという考察は何人からも聞かれ、とても納得できるものであった。

1108

1年生にとって、心に残り、今後に役立つ話であったことであろう。このような機会を提供して下さったS客員教授とそのクラスの4年生に心より感謝したい。1年生にとって、心に残り、今後に役立つ話であったことであろう。

### 話し方の大切さを知る (2018年11月25日)

学校や大学では書かれたものが重要(価値があり)、話されたことは重視されない。教科書やテキストに書かれた内容は正しいことで、教師はそれを読み上げたり説明したりする。教師の話したことを生徒がノートに書くことも重視される。

大学教員の業績は活字になった論文や著作が評価され、その人の授業や話し方が評価されるわけではない。そのような「書く文化」中心の学校文化の中に育つと、教師は書かれた

ものを中心に授業を展開するようになる。私のこれまでの大学での教員人生を振り返ると、とにかく書かれた優れた資料を探して、その説明に終始してきたように思う。話し方を工夫したこともない。内容さえすぐれていれば、学生はそれに感銘を受けると考えてきた。

昨日(24日)、敬愛大学の教職交流会で、向山行雄・国際学部教授の講演を卒業生や学生と一緒に聞く機会があったが、その話し方があまりに上手で、皆それに聞き入り、時間の経つのも忘れるほどであり、話し方がいかに大切かを、思い知らされた。

### 若い世代 (2019年1月16日)

テレビで討論やトークの番組を見ることあるが、最近は若い人(だけ)の討論やトーク番組に感心することが多い。中年あるいは年寄りの討論やトークの場合、それぞれの地位や利害が背景にある発言がほとんどで、自分の主張を言うだけで、他の人の意見に真摯に耳を傾けたりする様子は見られない。したがってその場で会話が交わされ新たな視点が生まれたりすることはほとんどない。

その点、若い人の視点や姿勢は柔軟で、自己主張をそれほどするわけではなく、他の人の意見に謙虚に耳を傾け、共感・コラボして新たな視点が展開されることが多い。さらに、若い専門家の場合、その分野の第一線の知識や体験を持っているので、そこから教えられいろいろ考えさせられる。

私が最近見た番組は、2つ。一つは元旦のNHKのBSで、社会学の古市憲寿氏ら司会をして、若い哲学や経済学やIT専門家、それに起業家が集まり、これからの社会や人の生き方に関して話し合っていた。古市憲寿氏の話ははじめて聞いたが、なかなかいい司会で感心した(\*1)。

もう一つは、成人の日のNHKのBSで、オリンピックの候補になりそうな4人の成人式を迎えるアスリート(テニス、飛び込み、バスケ、車椅子バスケ)が、様々なこと(自分のこと、家族のこと、20年後のことなど)を自由に話し合うトーク番で、今の若い人たちの考え、努力、挫折からの立ち直り方、将来展望など、とても健気で、さわやかで、感心させられた(\*2)。共に、若者世代でもエリートたちだが、いい優れた若者が育っていると感じた

↓



### 表現者の心意気 (2018年11月29日)

恋愛の歌より失恋の歌に人は惹かれる。何か成功した自慢話より逆境に耐えてそれを乗り越えた話に感銘を受ける。

辛いことが続くと、人の心は折れてしまうかもしれないが、それは人の心を打つことを書ける絶好の経験と思うことができれば、その辛さに耐えられるのかもしれない。少なくとも表現者（作家やジャーナリスト等）にとっては。

もうすぐ雑誌に掲載される藤原新也との対談で、安田純平氏が、「監禁されながら、『よし、この現実をとことん検証して調べて、書いてやる』と思いつけ、その気持ちがあったからこそ理性を保ち、生き延びてこれた」という意味の発言をしているとのこと。

表現者だけでなく、普通の我々も、この心意気を学びたい。

### NHK特集ドラマ「バーニング」を観る。(2018年12月30日)

昨日(29日)、新聞のテレビ欄に村上春樹の「納屋を焼く」(1980年)が原作の韓国映画がNHKの第1で放映という記事を見て、軽い気持ちでテレビのスイッチを入れた。その映画のすばらしさにびっくり。

村上春樹の1980年の原作が、現代の韓国を舞台に、韓国の巨匠の監督が、韓国の有名な俳優を使い、日本語の吹き替え(ヨン様の声も)で、映像も素晴らしく、内容がミステリアスで、久々にいい映画を観ることができたと感じた。

凡庸な私には今、この映画の魅力を言葉にできない。原作も読み返し、いろいろネットにある解説も参照しながら、この感動の理由を解き明かしたい。

### NHK 安室奈美恵、独占ロングインタビュー を見る (2019年1月21日)

社会学専攻のものは、「天邪鬼」が多く(?)、社会の最先端の流行には関心があるが、その流行が大衆的なものになるとそっぽを向く。芥川賞を受賞した小説は読むが、流行作家の本は読まない。一般受けするハウツー本は読まない。新しい音楽は聴くが、流行している音楽は聴かない。

私も今はやっている流行歌・ポップを聴くことはない。たとえば、平成の時代に一世を風靡した安室奈美恵の曲をまともに聴いたことはないし、その流行に関心を払ってこともない。なぜ若い女の子が安室奈美恵のファッションまで真似をしてしまうのだろうと不思議に思いながら素通りしてきた。また引退コンサートに多くの人が集まったというニュースにも関心を払わなかった。

昨日(1月20日) たまたまNHKの夜9時から番組を見て、はじめて安室奈美恵という人とその音楽や流行について知った。この若い女性の人生にこんなドラマや思いが存在していたのかと驚いた。そして、その悩みや生き方に好感をいだいた。社会学を専攻するものも、もう少し素直に、世の流行に関心をもつべきだと反省した

(1) 隠れたカリキュラム

学校は子どもたちに知識を伝達するだけでなく、その文化的特性を通じて、多くのことを教えている。

図4-1は、子どもが学校に通うことで受ける影響の領域を示したものである。

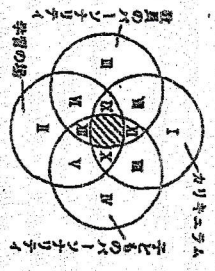


図4-1 子どもが影響を受ける学校の領域 (木原雄, 1974を参考に作成)

である。子どもは教科の内容を教師から授業場面で学ぶ(斜線部分)ばかりでなく、I教科書、II授業・教室、III教師のパーソナリティ、IVクラスメイトのパーソナリティ、V授業や教室でのクラスメイトの言動、VI授業や教室での教師の言動、VII教師の教科書観、VIIIクラスメイトの教科書観、などから多くのことを学んでいる。

さらに、表4-2は、学校におけるさまざまな活動が、子どもたちにとってどのような意識や価値観を形成しているかを示したものである。これは、学校や教師が意図的に行っているわけではなく、知らず知らず影響を与えているものである。つまり、隠れたカリキュラム(The Hidden Curriculum)である。

表4-2 隠れたカリキュラム

隠れたカリキュラムの形成	表4-2 隠れたカリキュラム
年長者の特権や責任	年長者への尊敬
校則、規則の遵守	法律遵守
男女別カリキュラム	性別役割分業
勉強やスポーツでの個人単位の競争	社会での出世競争
教師の指示に従う	上司の指示に従う
時間厳守、遅刻しない	退席や仕事にも遅れる
運動や授業にも遅れる	退席や仕事にも遅れる
努力、頑張る	努力が成功につながる
成績評価、順位付け	地位の分化の承認

学習指導要領改訂の方向性(案)

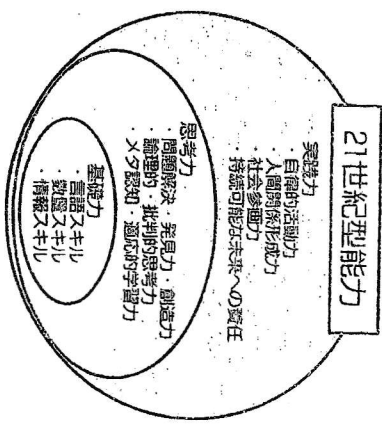
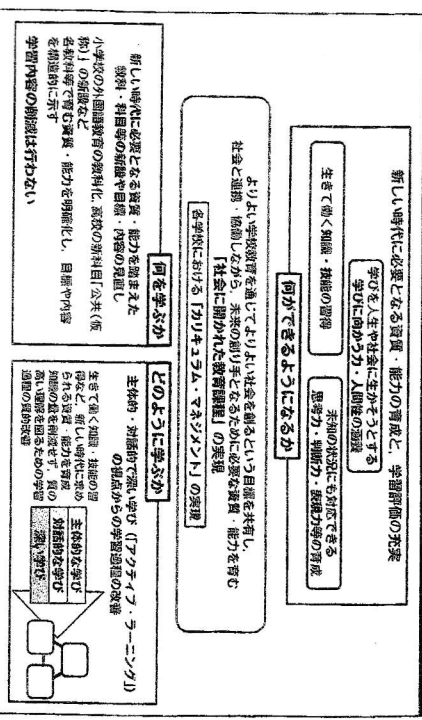
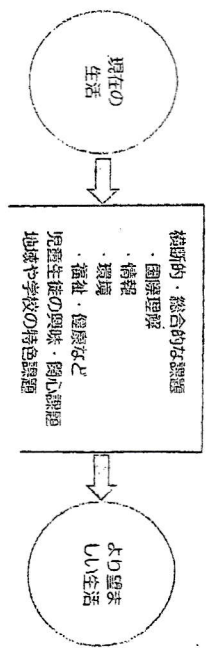
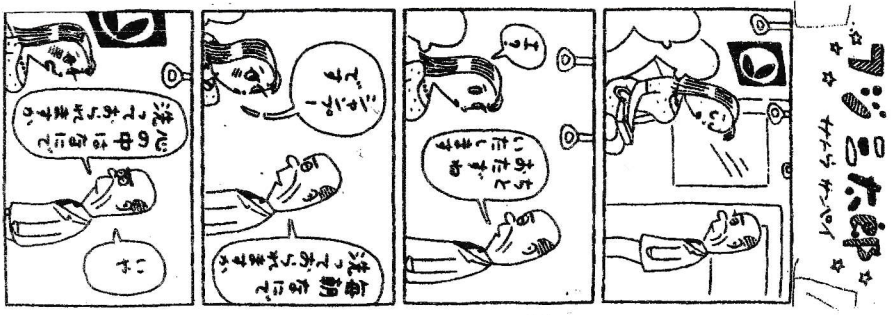


図1-1 21世紀型能力

(単位)



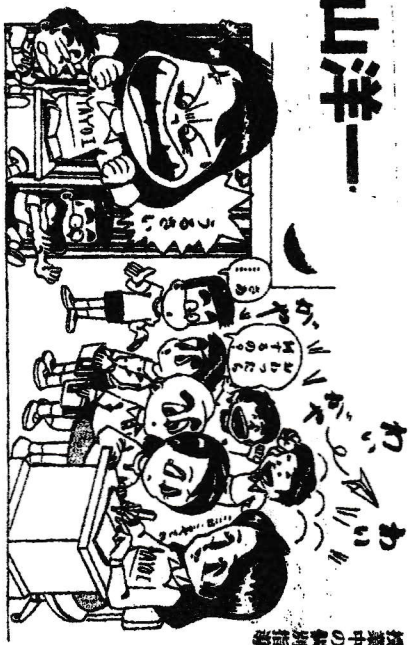
- 1 問題に対する感受性と好奇心——いんな問題や現象に敏感である。アンテナが鋭敏で、物事に心を奪われる。
- 2 考え方の柔軟性と流暢性——一つの考え方にとられない。多面的に考えることができる。他人の考え方を取り入れる融通性がある。思考が早い。
- 3 非権威主義的な態度——先例や慣例にとられない。



片岡徳雄

子どもの感性を育て



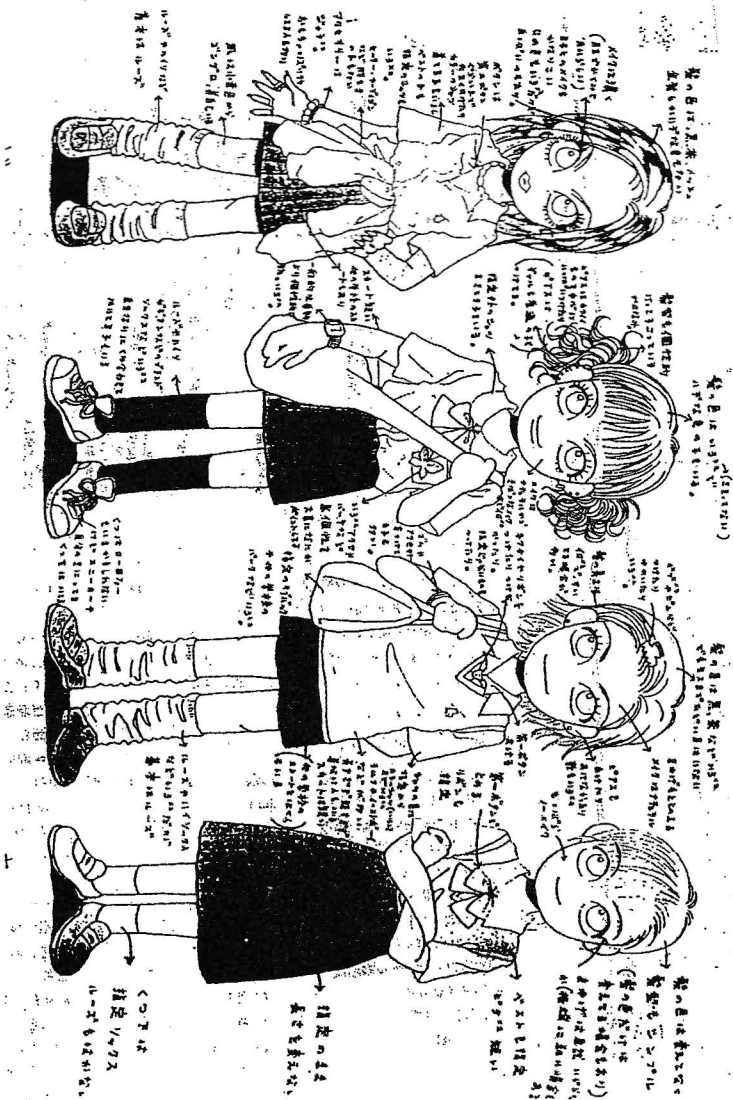


空自校止の原則

実行計画



学生の手帳



下 大生 (0-1日)

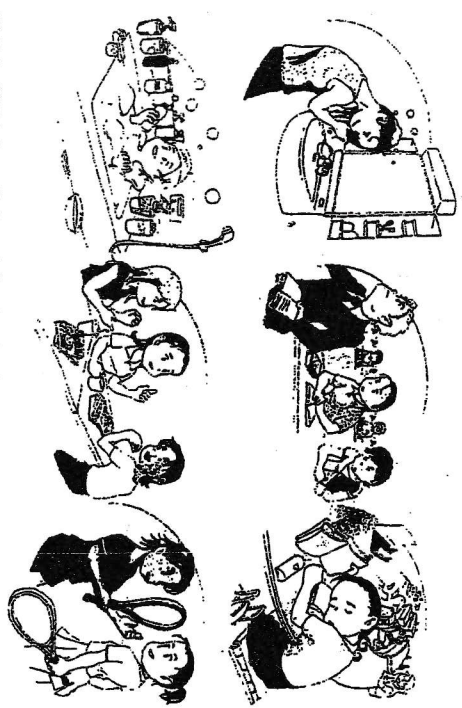


図 13-5 花子さんの一日 (1990年代の女子学生像)